

LIFE MANAGEMENT



ー クラブライフが心とからだと暮らしを変えるー

「元気なとやま」をつくるためスポーツクラブによる生き生きとした暮らしを提案します。

日本におけるスポーツの大切さを伝え、サポートしていきます。



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

創刊 卷頭インタビュー Interview

南木恵一氏に聞く

NPOがスポーツを変える!

スポーツ界で、わたしたちNPOが果たす役割は?

NPOは、「選手を強化する」「競技を普及する」など、スポーツ活動に欲求を持つ人たちに新たな活動の場を提供します。特長は、学校部活動など既存の「場」に比べ、対象分野や競技レベルなど目的が多様であること。県内各地の総合型地域スポーツクラブも、NPO法人格の有無の違いはあっても広義のNPO(非営利活動組織)です。

目的を達成するためにメンバー自らが動く、自主性・自発性がNPO活動の基本。参加するメンバーやボランティアが、充実感を持って活動できるシステムづくりが重要になります。スポーツNPOの活動に多くの人が参画し、自身の持つ能力を社会に還元していただければ、富山のスポーツはもっと元気になるのではないでしょうか。

わたしたちは県内にJリーグクラブが設立されることを願っています。県内のスポーツビジネスの今後の展開をどう考えていますか?

11月に開幕したバスケットボールbjリーグに富山グラウジーズが新たに参戦しています。野球・独立リーグの準備も進んでいます。スポーツ観戦というエンターテイメントを提供する事業は、県内にこれまでなかったものです。2シーズン、3シーズンと継続されることで、県内スポーツに大

きな影響を与えてくれると思います。

当然ながら、ビジネスとしての成否は、提供するサービスを買う人がいるかどうか、にかかってきます。国内では学校体育の長い歴史から、「スポーツはただ」という意識がまだ

根強い。受益者負担の意識を浸透させることはスポーツビジネス全般の課題です。

欧米では、総人口当たりのフィットネスクラブ加入率は5-10%。国内は3%前後ですから、この分野では、まだ伸びる余地があると考えます。これまでには、うまく売り出せていなかったのかもしれません。より広い分野で、さまざまなスポーツサービスに対して、それに「適正な対価を支払う・もらう」関係を成り立たせることで、スポーツビジネスが成長し、スポーツ環境の充実につながると考えています。

子供たちを取り巻くスポーツ環境が変化し、学校部活動だけでは対応し切れなくなってきたと感じています。わたしたちNPOは、学校とも連携ていきたい。

スポーツの価値を高め、教育分野に限らず、スポーツを生活の必需品と認めてもらえるようNPOとして問題提起ていきたいと考えています。

行政まかせではなく自発的に活動するNPOが増えることで、県内のスポーツ環境は活性化すると考えます。指導者養成や情報発信などを目的としたNPOも出てくるでしょう。行政と協働し、スポーツ施策などにも積極的に発言していくほしい。将来、県内にJリーグクラブが設立されれば、その運営にもNPOや総合型地域スポーツクラブとの協力関係を築いていかれることを望みます。



Keiichi Nanki

APA SPORTS CLUB マネジャー
南木 恵一 氏

1962年富山県生まれ。アピアスポーツクラブより出向し、自遊館リフレッシュプラザを立ち上げ、その後富山県広域スポーツセンター専任マネジャーとして総合型地域スポーツクラブの普及率を全国1位にした功績は大きい。現在はアピアスポーツクラブに戻り、マネジャーとして活躍中。私達の「TSCマネジメントアドバイザー」でもある。



http://www.toyamasc.net



Hitoshi Saeki Profile

佐伯 仁史

1964.11.24 富山市生まれ。富山南部中学ー富山東高校ー筑波大学体育専門学群卒。体育教師の傍ら20年前よりスポーツの重要性をクラブマネジメントの視点から実践中。日本サッカー協会2種大会部会委員、JFAスポーツマネジャーズカレッジ2005ライセンス、日本サッカー協会公認B級コーチライセンスを取得。他に日本クラブユースサッカー選手権大会実施委員長、北信越クラブユースサッカー連盟副会長、(社)富山県サッカー協会特任理事「Jクラブ担当」などを兼務し、県高体連研究部企画委員として、研究テーマ「地域スポーツクラブと部活動」で全国発表している。特定非営利活動法人富山スポーツコミュニケーションズ理事長。

Look!! me!! me!!

「会員による楽しい元気なクラブを」

「スポーツ」と言えば「今年はベスト8を目指し!」「次は全国大会出場」などのイメージが一般的。しかしそれはスポーツライフの極一部にしか過ぎず、狭い範囲での効果しか狙えない。戦後急成長を成し遂げ、物こそ豊かではあるが、大事なものを忘れ、様々な歪みにあえぐ日本。我々が知らず知らずのうちに蔓延させてきたストレス・現代病等の新しい課題。その事後対応を睨んだマーケットが拡大する中、予防策として個々のニーズにあった「人間らしい元気、笑顔や健康の獲得」が、医療費問題ひとつ考えてみてもより重要である。企業・学校スポーツ活動だけでは様々なニーズに応えにくくなった今、我々NPOができるることは何か。それは単なるボランティア活動ではなく「ミッション・ビジョン」を明確にし、老若男女すべての会員が主体となり、充実した組織・プロダクトを確立、サービス提供することである。そのためには「スポーツマネジメント」は不可欠であり、会員同士が楽しんで創り上げていくことが共感コミュニケーションを誘発し、「生きがい」の源となる。

私自身、こんな事を考えて15年ほど経つが、もう期が熟したと思う。このクラブでは「する」だけでなく「見る、語る、支える」ことにより誰もがやりがいのあるライフスペースにできる。すでに今年、会員さんのアイディアでいくつかのイベントが成功している。次世代を担う子供のためだけでなく、今生き抜こうとしている我々自身のためにもこの営みは大切。そしてそれは気付けば「素敵な街づくり」としてもマネジメントしていく。この過程が最も元気を感じるときに違いない。

17年度 事業報告



スクール事業

U-12、U15、U-18、U35、レフリーでの各スクールと、サッカーを知ろう、パワーヨガを開設し展開した。

団体会員事業

近隣中学部活動の冬季トレーニングの場として団体会員を受け入れる。4月～10月にわたり富山駅～総合運動公園の往復送迎を行った。

U-18スクール公式戦参加

Jユースカップ北信越大会へ参加

Jリーグ設立支援

ミッションビジョンに基づき岩瀬スポーツ公園などでJFL公式戦に横断幕を掲示した。

2005年度特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

自 平成17年4月1日 至 平成18年度3月31日 (単位:円)

経常収支の部		正味財産増減の部
科 目	金 額	
[事 業 費]	1,869,196	[正味財産増加の部]
[管 理 費]	554,661	正味財産増加の部 計 385,941
経 常 収 支 差 額	385,941	
<その他の資金収支の部>		
[その他資金収支差額]	0	[正味財産減少の部]
当 期 収 支 差 額	385,941	正味財産減少の部 計 0
前 期 練 越 収 支 差 額	0	前期練越正味財産額 30,000
次 期 練 越 収 支 差 額	385,941	当期正味財産合計 415,941

2005年度特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成18年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[流動資産]		[流動負債]	
(現金・預金)	385,941	未 払 金	30
普通預金	364,471	前 受 金	34,500
現金・預金計	364,471	流 動 負 債 計	34,530
		負 債 の 部 合 計	34,530
		正味財産の部	
(売上債権)		正味財産	415,941
未 収 金	86,000	(うち当期正味財産増加額)	385,941
売上債権計	86,000	正味財産 計	415,941
流動資産合計	450,471	正味財産の部 合計	415,941
		負債・正味財産の部合計	450,471
資産の部 合計	450,471	負債・正味財産の部合計	450,471

18年度 事業計画

①各スクール事業の充実

②U-18スクールの通年型公式戦「富山県U18リーグ」参加 (近隣中学・クラブとのクラブ申請)

③Jリーグ観戦ナビゲーションツアー

④各種講習会(日本サッカーアカデミー講習会・イタリアサッカーカリニックなど)

⑤JFLホームゲームでの観戦ナビゲーションサービス

⑥会報作成

⑦Jクラブ設立支援

*印は現在準備中

分 類	開設コース	対 象	回 数
競技指向型	U-12 かなりプラスαレッスン	12歳以下	週1~2回
アップ型	U-15 ブラスワンスクール	中学生	月3回
健康促進型・地域支援型	U-18スクール	高校生	週1~2回
	本気でフットサル	高校生以上	週2回
	ゴールキーパー 特別レッスン	小学生以上	月2回
	スーパーレフリースクール	中学生以上	月2回
	UP30 フューチャーズ	30歳前後以上	月2回
	おんなの子のサッカー	女子	月3回
	パワーヨガ教室	FREE	月4回
	サッカーを知ろう!ルール・戦術を観戦ナビから	大学生以上	月2回
	*スーパーサポーターズクラブ	高校生以上	不定期
	*サッカーテニス(仮称)	高校生以上	不定期
	*スーパー運動神経養成スクール球技4種	小学生以上	月4回

Mission Vision

TSCのミッション

「クラブライフが心からだと暮らしを変える」をモットーに、「する・見る・話す・働く・支える」の喜びを感じることができ、自ら楽しみ、夢を育くむことに貢献します。

TSCロゴマークの意味

*雷鳥の目とくちばし
を表している

*荒々しくもなだらかな日本海と雄大な立山連
邦の尾根を表し、寒流と暖流が交差する富山
湾での海の幸である魚を表している

◆*米どころ富山の稲穂を表している

*全体的にチュー
リップをイメー
ジしている

*富山には多くの1級河川があり
力強い、重厚な流れを表す。

*会員の手づくりによるクラブであることを
願い、手書き調としている。

TSCのビジョン

■Jリーグクラブつくりを地域クラブの立場から支援することによって、子供から大人まで県民に夢と感動を与えます。

夢を語れる子供、若年層・高齢層との交流の場を増やすため、クラブライフによる喜びをJリーグクラブ設立にも反映させ、県民全体の一体感を感じることによって、地域社会や家族間での共通話題を増やし、全世代に夢を育みます。

■スポーツによって「元気とやま」を創造し、富山県を大きくアピールします。

富山の知名度を上げるために、スポーツ選手の育成やJリーグクラブ設立に寄与するとともに「元気で健康なとやま」のイメージを全国に伝えます。県内で人材を育て活用することで全国的・世界的なニュースを発信します。

■生きがいのある高齢社会や青少年がのびのびと育つ環境を提供します。

中・高齢者への生きがいと健康の推進に寄与します。また核家族化がすすむ中、異年齢集団での交流を増やし、子供の心身の教育に寄与します。そして青少年が身近に「夢」を持ってスポーツ活動に取り組むことを可能にし、支えあいながら克服する素晴らしさを体感できるようにします。

■スポーツ文化の高揚に寄与します。

誰もが気軽にスポーツクラブを楽しめるよう地域住民の手でつくりあげることによってスポーツを常に携帯し、クラブライフを生活の一部とすることが可能となります。

■豊かな地域コミュニティの形成を図ります。

様々なスポーツコミュニティを形成することによって、県民の心地良いコミュニケーション活動の場、情報発信源として地域を活性化します。

型にはまらない成長を願って

沼田 文子さん (U-18スクール=母親)

U-18スクールに通う中学1年生の母です。昨年4月、子供が富山スポーツコミュニケーションズ(TSC)のU-12スクールに入会しました。スポーツ少年団でサッカーをしていて、少し伸び悩んでいる時でした。「もっとサッカーがしたい」「もっと上手くなりたい」という子供の要望に応えてくれるスクールがあればと思っていました。

スクールでは、基本をしっかり教えていただきました。シュート時の体の動かし方、ドリブルでのボールの位置、ボールが欲しい時の声の掛け方等々。基本を知っていると知らないとではこんなに大きな差があるのかと感じました。今もプレーのいろいろなところに活かされていると感じています。

冬になるとスポ少の練習が週2日に減り、練習量の確保について悩んでいた時、TSCの佐伯さんに相談し、U-18の練習に参加させてもらうことになりました。初めは不安でしたが、高校生に声を掛けてもらい、すぐに溶け込んでいました。それからは高校生との練習日をとても楽しみにしていました。適度に緊張しながら楽しんでいたように思います。

中学へ進むにあたり、子供とサッカーの進路について考えました。「サッカーを頑張りたい」という子供の気持ちに、クラブチームへ進むか、部活動へ入るか迷いました。結局、本人は部活動とU-18スクールを選びました。U-18の高校生の皆さんには、高い目標であり、実際にやって見せてくれるコーチのような存在です。U-12の時はどこか余裕を持ちながらの練習でしたが、U-18では思いっきりプレーを楽しんでいます。

部活動では、3年生に混じって試合にも出してもらっています。初めは少し緊張していたようですが、すぐに自信をもってプレーをしていたように思います。早くからTSCで中高生のみなさんと練習をさせてもらっていたお陰です。以前は、ディフェンスが苦手だったのですが、冬の間、高校生としっかり練習していたお陰で、いつのまにか克服したようです。

TSCでは異世代の皆さんとサッカーをしたり、会話を楽しんだり、多様な経験をさせてもらっています。多様な環境の中でこそ、型にはまらない多様な成長があるように思います。そのような環境でサッカーをさせてもらっていることに感謝しています。

親子とも、このスクールでいろいろな方と交流ができました。それぞれの目標を持ち頑張っている方がいることを知り、とても刺激になりました。サッカーだけでなくいろいろな方から多くのものを得ることができました。いつも支えてくださっている代表の佐伯さんはじめスタッフの皆さんに心から感謝いたします。TSCには、大きなど

ジョンのもと、一人ひとりの思いを支援する場所であってほしいと思います。一人ひとりのもっと成長したいと思う気持ち、高い目標に応えられるよう、より良い環境づくりを目指して下さい。

世代や地域を越え交流

義浦 真由子さん (U-18スクール=母親)

子供が、小学6年生の秋から富山スポーツコミュニケーションズ(TSC)のU-18スクールに参加させていただきました。スポーツ少年団だけでは「練習時間が足りない」と悩んだり、地区トレセンで幾度となく壁にぶち当たって落ち込んだりして、もがいている様子を見て、「何とかできないものか…」と考えた結果です。U-12スクールに参加していた友達のお母さんと一緒に、佐伯さんにいろいろと相談を持ちかけました。快く私たちの提案を引き受け下さった事について、心より感謝しております。

中学に入学してからは、U-15スクールに入会することも考えましたが、「今まで仲良くしていただいた高校生の皆さんとまた楽しみたい。」と言う本人の希望により、U-18で継続することといたしました。部活動と学習に加え、U-18の練習を両立していくのか、不安でしたが、「とにかくやってみよう!」という気持ちで参加いたしました。中学校の部活動も大きな期待を胸にスタートしましたが、早くもいろいろな悩みや、焦りが出てきています。今の本人にとってU-18は、心をリフレッシュさせてくれる大切な場ともなっております。

スポ少や部活動を継続させながら、足りないものを補うことができるというのも、このスクールの良さだと実感しております。そして何より、学校の枠を越えて、多くの友達が出来ました。小学時代は試合で出会うと、お互いに挨拶を交わしたものでした。お互いのチームの練習に参加させてもらったり、家まで泊まりに行ったりと、いろいろな楽しい思い出とともに、心も成長していったと思います。練習に通うのはちょっと大変だけれど、参加して本当に良かったと感謝しております。

TSCのU-18スクールは、「レベルアップして、バンバン試合に出たい!」「ちょっとサッカーをやってみようか?」「楽しければいいや」などと、一人ひとり入会した理由が違うと思います。入会した目的や将来・進路についての悩みなど、それぞれが抱える問題を解決する糸口が見付かるよう、気軽に相談できる場所であって欲しいと思います。将来的に指導者が増え、個々の希望や要望に合わせた個別指導をしていただけたら最高です。

これからも親子ともども、楽しく参加していきたいと思っております。どうかよろしくお願ひいたします。

TSC会員による参画型レポート 「NPOのマーケティング」を受講して

主催: 県民ボランティア総合支援センター

期日: 平成18年8月8日(火)13:00~16:00

場所: サンシップとやま

講師: 松原明さん(シーズ=市民活動を支える制度をつくる会=事務局長)

■そもそもマーケティングとは何なのか?

なぜNPOにマーケティングが必要なのか?



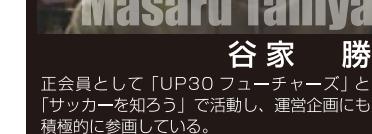
その答えのヒントはNPOの現場が抱える悩みの中にあるようです。

<NPOの悩み>

- ①会員・支援者が増えない
- ②地域や行政の理解が少ない

財源、人材不足からくる悪循環

■財源、人材不足の原因は?



Masaru Taniya
谷家 勝

正会員として「UP30 フューチャーズ」と「サッカーを知ろう」で活動し、運営企画にも積極的に参画している。

NPOの目的と支援希望者のニーズに差があることが一因。NPO活動が当てる焦点とニーズの変化にギャップが存在します。それを把握し解消するためマーケティングが必要になる。とりまく環境(自治体、企業、ボランティア etc...)は変化しており、NPOと合うところを見つけることが大切。

■いかに支持者を増やすか(会員、寄付など)

支援者の関心がどこにあるのかを探らなくてはいけない(ニーズの理解)。そしてニーズを満たすことで支持者を増やしていくことが大切。そのためには、「良いプログラム」「支援者への対応」「感謝と報告」などが重要。

上記を他のNPOの実例を挙げて説明されました。NPOだけががんばり過ぎるのではなく、活動の焦点を支持者にあてることがマーケティングのポイントだという事でした。

ターゲットが一般市民であれ、行政、企業であれそれぞれにニーズを持っています。ただそれがNPOの目的と必ずしも一致しないという現実があります。しかし本来の目的は違っても、NPOの持つ資源を活用しニーズと交換することで結果的に目的達成することができればNPOとしても成功といえますし、支援者もニーズが満たされることで満足感を得られます。そのためにはニーズを理解する事が必要で、マーケティングの必要性もそこにあります。ニーズのみに囚われない「NPOとしての成果」をどう出すか、原理原則を忘れないことも重要なことです。今後のNPO法人富山スポーツコミュニケーションズの活動にもともと役立つ講座でした。

新潟ツアーに参加して

初めてのビッグスワン。サポーターの声の大きさに一番驚いた。

入場口へ急ぐ途中、メンバー発表に呼応する雄叫びとブーイングが、外まで響いてきた。「何の音かな」と一瞬分からず、それと気づいてハッとした。

大人が、おなかの底から声を出す機会ってどれぐらいあるだろう?自分なら年に数回の草野球の時ぐらいか…。スタンドで飛び跳ねるサポーターを見て、大声も体を動かすのと同じ生命力の発露だと感じた。うらやましくなった。現代人がエネルギーを解き放つ場を、アルビレックス新潟が創出していた。新しい文化がそこに根付いていると思った。



パワーヨガを楽しむ ~6ヶ月後の私~

沼田友紀美：正会員

「息を吐きます。ふうー。」インストラクターの声で息を吐くと、体中が緩んで「ふう～」と言っているようです。呼吸に合わせてポーズをとっていると、汗がドラドラ流れてきます。また、仕事のことなどをあれこれ考えていたのに、いつの間にかただひたすら呼吸とポーズのことだけを考えている自分がいます。

6ヶ月を終わってみれば、持病の腰痛はなくなり、体重も健康的に6キロ減り、心地よい疲れに包まれています。まさに、身も心もリフレッシュできるパワーヨガです。

U-18リーグに参加して

中村貴彦：中学生会員

U-18リーグに参加して、僕はとてもいい経験になったと思ってます。高校生との試合で思ったことは怖い高校とかもあるし、やさしい高校もあって、様々な高校が様々なプレーをして中学生とは違った面がみられました。

僕は高校生には体では勝てないけど自分がもっと強い相手にあたったことを考え、精一杯頑張ってきました。そういう事を考えると高校生という上の学年とあたるのはすごく自分のためにもなるし、一人一人の力になっていると思います。なので、とてもいいチームでサッカーをしていられるのだと思った。しかも、T3リーグで様々な高校を見られ、少しは将来の事も考えられたかと思います。

FC富山(U-18スクールのチーム名)の先輩はやさしくサッカーモともやりやすく自分のプレーが少しほどできたと思います。試合ではいつものポジションじゃない所もできて、いつもディフェンスをやっていたけどオフェンスをやることで自分の力を少しほどのはせたし、少し大きな相手でも勝てる気持ちが少しほどてきました。

このFC富山でサッカーをする事が出来てとてもよかったです。今後、FC富山での体験をいかしていくように頑張りたいと思います。

東京大学運動会スポーツマネジメントスクール2期生
現在は地方紙整理記者
NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ理事

赤壁 逸朗



観戦ツアーはバスが満席となる老若男女 40 人が参加した。
写真は開始 1 時間前からゴール裏がサポーターで満席になった「新潟ビッグスワン」と「参加者」。

この日の来場者数は 36,000 人だった。

INFORMATION

■イタリアユースサッカークリニック in とやま2006

日 時：①平成18年12月15日(金)19:00～20:30 4種年代、その後懇親会
②平成18年12月16日(土)14:00～15:30 講演会(すべての方々対象)
③平成18年12月16日(土)17:00～18:30 2・3種年代、その後懇親会

場 所：富山県岩瀬スポーツ公園健康スポーツドーム及び富山県民会館706号室

定 員：①～③それぞれ35名～50名程度

講習内容：TSCへ直接ご確認ください。

受講料：サッカークリニック①・③は1名につき2,000円

講演会②は1名につき1,000円

懇親会：15日 「宿 坊」 21:00～ 会費5,000円

16日 「えび寿司」 19:00～ 会費7,000円

講 師：河村 優(かわむら すぐる)氏

1993年広島県立広島県音高等学校普通科卒業

1997年神戸学院大学法学院卒業

2005年ペルージャ外国人大学イタリア語学科修了

(取得ライセンス)

ヨーロッパサッカー協会公認B級

イタリアサッカー協会公認 「Allenatore di base」

イタリアサッカー協会・オリンピック委員会公認 「Istruttore di scuola calcio」

日本サッカー協会公認B級コーチ

参加申込：氏名・電話番号・参加希望コースを添え直接TSCへお申ください。

携帯090-5176-0075 TEL/FAX 439-9277

■岩瀬スポーツ公園指定者管理バックアップ事業「スポーツターフ講習会」

日 時：9月29日(金)～30日(土)

会 場：富山県総合体育センター・岩瀬スポーツ公園

■第2回理事会(佐伯・鍋田・小杉・野村理事出席)

日 時：10月3日(火)19:00～

会 場：サンシップとやま3F

協議事項：冬季練習場所について 会報作成について 入会状況 財務状況

Jリーグ観戦ツアーについて スポーツターフ講習会報告

スクール運営体制について イベント事業について その他

■パワーヨガ教室チ懇親会

日 時：11月1日(水)19:15～

場 所：富山電気ビル4F

■Jクラブ設立支援企画 第3回Jリーグ観戦ナビゲーションツアー

「J1公式戦 浦和レッズ vs 横浜Fマリノス」

日 時：11月11日(土)

場 所：埼玉スタジアム。レッズランド見学あり。

参加料：大人11000円、中学生以下8500円

■2006富山県U-18リーグ「Tリーグアウオーズ」(表彰式企画TSC協力)

日 時：11月25日(土) 14:00～

場 所：富山第一ホテル

講演及びプレゼンター：日本サッカー協会技術部長 松田薰二氏

懇親会：同ホテル 17:00～

■平成18年度都道府県スポーツ指導者研修会(主催:富山県体育協会)

日 時：11月26日(日)16:30～

場 所：小杉文化ホール「ラポール」

研究協議「これからのスポーツ環境に必要なこと」

パネリスト：岡澤祥訓(奈良教育大学教育学)

長野哲也(大阪ガス(株)リビング事業部)

布村忠弘(富山県公認スポーツ指導者競技会会长)

司 会：佐伯仁史(NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ理事長)



事務局

〒930-0818 富山市奥田町 12-41-203

Tel.Fax.076-439-9277

携帯番号 090-5176-0075

E-mail (pc) h104fc@mbm.nifty.com

(携帯) toyama-sc.2006clublife@docomo.ne.jp

URL http://www.toyamasc.net

Vol.1 発行日：2006年11月1日
〔発行〕 年3回(11月・3月・7月)
〔発行〕 NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

〔発行人〕 佐伯仁史

〔編集人〕 赤壁逸朗

クラブライトが心からだと暮らしを変える